

T H E Y A K U J I N I P P O

薬事日報 薬 学 生 新 聞

<http://www.yakuji.co.jp/>

発行：株式会社薬事日報社
東京本社 〒101-8648
東京都千代田区神田和泉町1
TEL.03-3862-2141
FAX.03-5821-8757
大阪支社 〒541-0045
大阪市中央区道修町2-1-10
TEL.06-6203-4191
FAX.06-6233-3681

薬学教育6年制となって初めて行われた長期実務実習の評価について、指導に当たった薬局や病院の薬剤師、薬学生を対象にしたアンケートの結果が、10月10、11日に長野県で開催された第43回日本薬剤師会学術大会で発表された。薬局の指導薬剤師のうち約92%が、実習生を受け入れたことを「良かった」と前向きに受け止めた。また、薬学生も多くが、実習を通じて「成長した」と自己評価していた。一方、十分に実施できなかった到達目標（SBOs）が存在することが、課題として報告された。

実習受け入れ 92%が「良かった」

日本薬剤師会が行った「薬局実習に関する受入薬局アンケート」の速報値を、高橋寛氏（日本薬剤師会薬学教育に関する特別委員会・実習指導体制整備検討会委員長）が発表した。

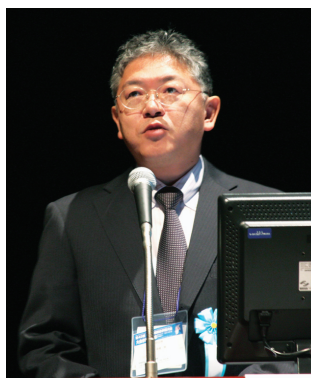
アンケートは、5～7月に実施された第Ⅰ期薬局実務実習の実習生を受け入れた指導薬剤師を対象に実施。実習生1人に対し1部を配布した。回答率は86.3%、2911人から回答があった。

「実習生を受け入れて良かったと思うか」との問いに、49.4%が「はい」、42.8%が「どちらかといえば、はい」と回答し、合計で約92%と多数を占めた。「どちらかといえば、いいえ」は5.8%、「いいえ」は1.0%だけだった。

受け入れて良かった点として「自己研鑽になった」（66.6%）、「未来の薬剤師育成に貢献できた」（62.7%）との意見が多かった。苦労した点は「事前の準備」（64.9%）、「スケジュールに沿った進行」（58.2%）、「業務への影響」（52.3%）、「実習生の評価」（39.5%）と続いた。

「今後も実習生を受け入れたいと思うか」との問いには、「はい」（39.3%）、「どちらかといえば、はい」（43.2%）と合計約83%が前向きな姿勢を示した。

実習中のトラブルは187人（6.4%）が経験。このうち「数日間程度の実習中断」は64人、「実習そのものの中止」は8人が経験した。



高橋氏

トラブルの原因としては、不慮の事故による怪我、実習生の意欲欠如、実習中に感染した疾病、精神的な原因から発生した体調不良などが挙げられた。

調整機構も調査

一方、薬学生自身の実務実習に対する評価はどうだったのか。病院・薬局実務実習関東地区調整機構委員長の戸田潤氏（昭和薬科大学医療薬学教育研究センター教授）は、同地区の薬学生や指導薬剤師を対象に実施したアンケート調査の結果を発表した。

調査に応じた薬局実習生1535

学生は「成長した」と実感

一部SBOs実施に課題

人、病院実習生1181人のうち90%以上が、実習を通じて「大きく成長した」「成長が見られた」と前向きに評価した。戸田氏は「学生は実習で変わることができた、と捉えていいと思う」と話した。

高橋氏、戸田氏が発表した今回のアンケート結果から、十分に実施できなかったSBOsが存在することも明らかになった。その1つが「薬局カウンターで学ぶ」というユニット。日薬の調査では14.9%の指導薬剤師が、十分に実習を実施できなかったSBOsとして、このユニット中のSBOsを挙げた。

戸田氏の発表でも、薬局実習生の10%以上が「やや不十分」「できなかった」と回答したSBOsとして、▽問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成▽抗癌剤などの取り扱いの体験▽医師への受診勧奨▽OTC薬、健康食品などを適切に選択・供給▽患者・顧客からモニタリングで得た副作用、相互作用情報への対応策を説明——などが挙げられた。

病院実習生でも同様の傾向が認められたほか、「適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと意見交換」というチーム医療に関するSBOsについて「やや不十分」「できなかった」との回答が多かった。

約7500人が参加した日薬学術大会



国家試験の勉強、

いつからやるの？

何から始めるの？

まだ習ってない！

やる時間ない！

不安だ…



薬剤師を目指す学生の支援サイト

薬剤師国家試験対策.com

PC <http://be89314.com/> 携帯 <http://be89314.com/i/>

と思った人へ。

